

《担当者名》○ 歯学部教授 / 齊藤正人 歯学部准教授 / 広瀬弥奈 歯学部講師 / 倉重圭史 歯学部助教 / 榊原さや夏
 歯学部助教 / 蓑輪 映里佳 歯科衛生士 / 武井貴子 歯科衛生士 / 鈴木恵子

【概 要】

第1学年後期の講義を経た者を対象に、北海道医療大学歯科クリニック小児歯科の外来においてチェアサイドにおけるアシスタント業務、予防処置などの他、診療室内での歯科衛生士としての業務を実施体験し、理論と実技を身につけることを目的とする。

【学修目標】

小児歯科の診療の流れを理解し、4 handed dentistryの実際を修得する。

小児期の特徴を理解した上で、年齢別・発達段階別にみた小児および保護者への適切な対応を修得する。

小児歯科における各処置（麻酔、ラバーダム、修復、歯髄、外科、咬合誘導）の流れを理解し、適切な器材の準備と診療補助を学習する。

小児齲蝕の特性を理解した上で、適切な齲蝕予防処置・指導（プラークコントロール、フッ化物応用法、食事・間食指導）を修得する。

小児歯科外来で使用する各種セメント、印象材、器具の取り扱いを修得する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	小児患者と保護者への対応法について ・年齢別、発達段階別にみた対応法 ・抑制的対応法 ・保護者への対応法	● 患児、保護者、歯科医師・歯科衛生士の三者間に良好な信頼関係を構築することは、小児歯科診療を進める上で重要である。治療に協力的な小児、非協力的な小児への対応法について見学・実習を通じて、歯科衛生士として患児や保護者への接し方を習得できる。 ○ P.48 - P.55	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科の診療システム ・診査、診断 ・治療計画の流れ ・患児および保護者の教育 ・リコール（定期診査）ならびに患者管理	● 小児患者に対する診査と診断および治療計画立案の基本、また初診・母親教室からリコールに至る小児歯科診療の流れについて理解できる。 ● 小児歯科診療におけるリコール（定期診査）システムの意義と重要性、管理方法、間隔、診査項目について理解できる。 ○ P.58 - P.100	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助Ⅰ ・診療の準備と診査時の補助	● 小児歯科診療における補助者の役割および診査の際に必要な器材の準備について学ぶ。 4 handed dentistryでのposition、器具の受渡しの基本について学ぶ。 ○ P.58 - P.64	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助 ・局所麻酔法 ・ラバーダム防湿法	● 小児歯科診療で繁用する局所麻酔法について必要器材、薬剤について理解できる。 ● ラバーダム防湿法に必要な器材、術式について理解できる。 ○ P.65 - P.66	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 蓑輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助 ・歯冠修復処置	● 種々の歯冠修復法の実際を見学し、必要な器材および術式について理解できる。 ● 小児歯科特有の歯冠修復法である乳歯用既製金属冠	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		修復法について必要な器材および術式について理解できる。 ○ P .67 - P .78	榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助 ・ 歯髄処置	● 種々の歯髄処置法の実際を見学し、必要な器材および術式について理解できる。 ● 小児歯科でよく用いられる歯髄切断法について必要な器材および術式について理解できる。 ○ P .79 - P .90	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助Ⅴ ・ 外科的処置	● 種々の外科的処置法（抜歯、外傷、軟組織疾患の処置）の実際を見学し、必要な器材および術式について理解できる。 ● 外科的処置後の注意事項について理解できる。 ○ P .91 - P .98	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における診療補助 ・ 咬合誘導処置	● 種々の咬合誘導処置法の実際を見学し、必要な器材および術式について理解できる。 ● 咬合誘導処置の一つである保隙処置について装置の名称、形態、必要な器材および術式について理解できる。 ○ P .99 - P .100	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	小児歯科における齲蝕予防 ・ ブラークコントロール ・ フッ化物、シーラントの応用 ・ 食事指導、間食指導	● 小児の齲蝕予防を目的として、患児および保護者を対象に年齢別・発達段階に応じた適切なブラッシング指導法について理解できる。 ● 齲蝕予防処置として日常行われる種々のフッ化物応用法およびシーラント応用に必要な器材、術式について理解できる。 ● 齲蝕予防のために必要な食事および間食指導法について、見学・実習を通じて理解できる。 ○ P .102 - P .147	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子
	その他 ・ 各種セメントの取り扱い ・ 各種印象材の取り扱い ・ 器具の名称と取り扱い ・ 相互実習 口腔衛生指導 歯面研磨 （ P M T C に準ずる ）	● 小児歯科診療で使用する各種セメント、印象材について、その取り扱い、練和法について理解できる。 ● 小児歯科外来で使用する種々の器具について名称、消毒法、取り扱い法、整理法などについて理解できる。 ● 患者に対する適切な指導法を相互実習を通じて理解できる。 ● ハンドピース、バキューム等の使い方を相互実習を通じて理解できる。	齊藤 正人 広瀬 弥奈 倉重 圭史 榊原 さや夏 義輪 映里佳 武井 貴子 鈴木 恵子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

ケース点（50％）、口頭試問等（50％）により総合判定する。

【教科書】

「最新歯科衛生士教育教本 小児歯科」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

【学修の準備】

実習内容を理解したうえで、毎回の実習に臨むこと。

【実務経験】

齊藤正人（歯科医師）、倉重圭史（歯科医師）、榊原さや夏（歯科医師）、武井貴子（歯科衛生士）、鈴木恵子（歯科衛生士）

【実務経験を活かした教育内容】

これまでに培った小児歯科学の知識・技術を理解し、歯科医師と歯科衛生士からの指導を受けることにより、技術と患児、保護者とのコミュニケーション能力を修得できるため、高い教育効果が得られる。